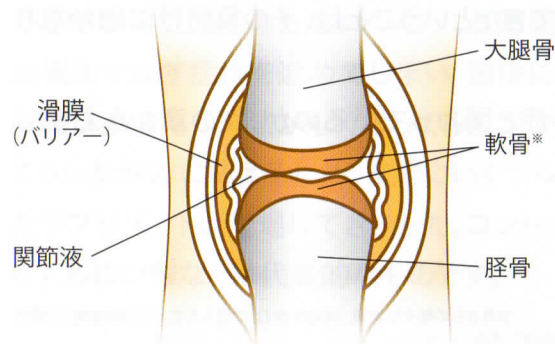


第2章 なぜひざ痛が 起こるのか？ SAME

膝関節症の起こるメカニズム

多くのひざ痛の原因である「変形性膝関節症」。これは、ひざ関節の軟骨がすり減り、関節が変形して痛みや炎症を起こす病気です。軟骨がすり減ってしまうと、体重がかかる大腿骨と脛骨の隙間(軟骨の厚さ)が狭くなります。この隙間は正常な状態では6ミリから8ミリほどなのですが、この病気になると3ミリ程度まで狭くなっていることが、X線写真で確認できます。

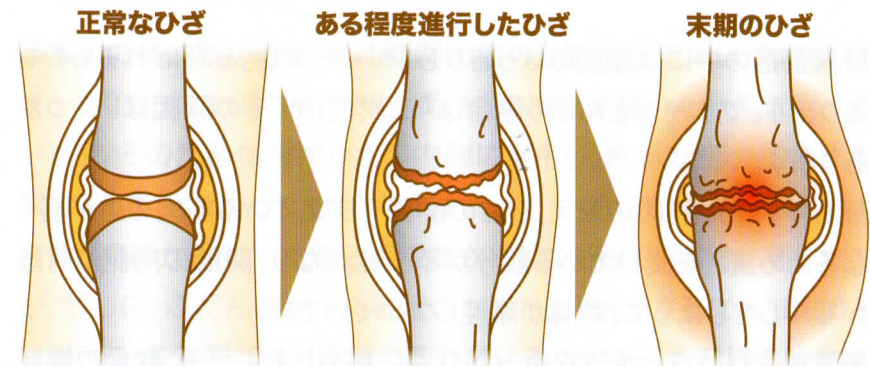
すると軟骨に覆われている骨と骨が直接触れ合うことになり、それが大きな刺激になって骨の表面が固くなったり、トゲのような突起があらわれたりします。また関節全体を覆う滑膜に炎症が起こります。



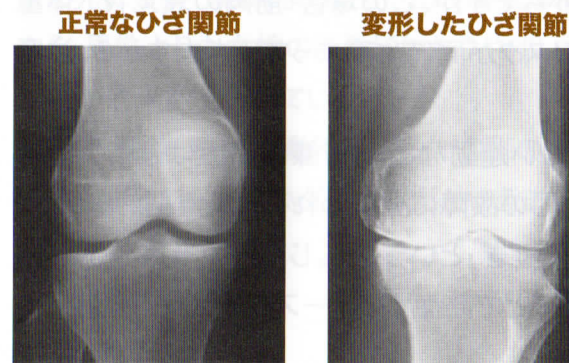
ポイント!!

軟骨には血管がありません。だから、移植もできませんし、再生もしません。血流がないのに軟骨はどうやって生きていくのでしょうか？

※軟骨には2種類あります。線維軟骨と硝子軟骨があります。一番大切な軟骨は硝子軟骨です。



関節内には軟骨に必要な成分が放出されていますが、加齢とともにその量が減り、軟骨は摩耗するばかりです。ついには骨同士が直接触れ合う状態になります。



左は正常なひざ関節のX線画像。上下ふたつの骨の間に隙間(軟骨はレントゲンでは写らないため、軟骨の厚さを示しています)が見えますが、膝関節症になると右のように隙間が狭くなっていきます。